

1 4. 若齢肉用鶏に発生したアデノウイルス性筋胃びらん

玖珠家畜保健衛生所 1) 大分家畜保健衛生所
○佐伯美穂・下田洋子・松井英徳・病鑑 人見徹¹⁾

【はじめに】

鶏アデノウイルス感染症は、封入体肝炎、筋胃びらん、心膜水腫症候群、壊死性膵炎および呼吸器病など多様な病態を起こすことが知られている。そのうち筋胃びらは、日本では1993年に採卵鶏で初めて報告されて以降、1998年頃からブロイラーで多発しており、近年は若齢肉用鶏での死亡羽数増加の原因として問題になっている。今回、管内肉用鶏農場でアデノウイルス性筋胃びらんが発生したので報告する。

【発生概要】

発生農場は、飼養羽数14千羽、鶏舎は平飼いで開放6棟及びウインドウレス2棟の計8棟、鶏種はチャンキー（一部コップ）、敷料には発酵鶏糞を利用。

平成29年6月21日に、3号鶏舎（開放）において死亡羽数が増加したため当家保あて通報があり、同日立入り。死亡鶏は14日齢で鶏舎内に散在し、発育不良であったものの目立った臨床所見は認められず。鶏群で発育不良個体が多く認められたため病性鑑定を実施。

【材料及び方法】

衰弱鶏3羽と死亡鶏4羽について、定法に従って病理学的検査、細菌学的検査、ウイルス学的検査等を実施。

【成績】

剖検所見では、7羽すべてに共通して、筋肉と肝臓の退色、筋胃の黒色水様内容物及び粘膜のびらんと肥厚を確認。病理学的検査でも7羽全てで筋胃腺上皮細胞に好塩基性または好酸性核内封入体を伴うびらんや潰瘍を観察。ウイルス学的検査では7羽中7羽の筋胃及び7羽中1羽の肝臓からFAVに特異的な遺伝子断片が検出され、血清型は1型と推察。以上の結果から「アデノウイルス性筋胃びらん」と診断。

【敷料検査】

3号鶏舎での死亡羽数増加が終息して2週間後、同時期に入雛した2号および4号鶏舎も含めた3鶏舎分の敷料についてウイルス学的検査を実施。2号から4号までの3鶏舎ともにFAVに特異的な遺伝子断片を検出。

次回入雛前に2号から4号鶏舎の敷料について、ウイルス学的検査を実施、FAV特異遺伝子は検出されず。

【まとめ】

管内の肉用鶏農場の14日齢の群における死亡羽数の増加は「アデノウイルス性筋胃びらん」と診断。当農場に対して、鶏舎毎の専用長靴、衣服の着用などの一般的衛生管理の徹底と、オールアウト後の洗浄消毒の徹底を指導。その結果、次回入雛群では症状を示すものは見られていない。